



# アコーディオン演奏



## フランス文学者の話

来月7日 横浜「かなつくホール」



鹿島茂さん

ワインを傾けつつ音楽と対談を聞いて、フランス気分になってみませんか?—約150年前に仏領事館が置かれた横浜市神奈川区の区民文化センター「かなつくホール」で

6月7日、「お話とアコーディオンで届ける横浜フランスモノ語り」と題した催しがある。休憩時にはワインも無料で振る舞われ、パリの街角の雰囲気味わえそうだ。

催しはアコーディオン奏者・かとうかなこさんの演奏と、フランス文学者の鹿島茂・明治大教授の話の2本立て。2人の対談もある。

かとうさんは日仏のコンクールで優勝経験がある若手演奏家。海外アーティストとの共演も重ね、ソロCDがテレビ番組で使われるなど、いま注目を集めている。「アコーディオンで巡るフランス歴史紀行」と題して「オー・シャンゼリゼ」「パリの空の下」などおな

じみの曲で、フランスの香りを届ける。

鹿島さんは横浜市出身。19世紀パリの大衆文化にも詳しく「セーラー服とエッフェル塔」など多数の著作がある。仏から日本にもたらされたベレー帽や香水といった「モノ」を通じて、横浜と仏の接点などを話す。

1858年に日仏修好通商条約が結ばれ、近代の両国の交流が始まったころ、かなつくホール近くの慶運寺(同区神奈川本町)には仏領事館が設けられた。こうした縁に加え、横浜フランス月間(6月1〜30日)にもちなみ、同ホールの自主企画「テーマ型コンサートシリーズ」のテーマにフランスを選んだ。「日仏交流150周年記念事業」の一つで、仏大使館も後援している。

午後2時開演。全席指定3000円。問い合わせは、かなつくホール(045・440・1211)。**【高倉友彰】**